

ビハーラレポート

令和2年2月28日 発行 **No.80**

ビハーラ秋田 ホームページ <http://vihara.main.jp>
フェイスブック <https://www.facebook.com/vihara.akita>



パステルアート（吉田みどりさん作）

CONTENTS

- ビハーラセミナー
 - 「多田等観を知っていますか ～明治期にチベットへ渡った秋田の僧侶～」2
 - 「親なき後とは何か ～障がい福祉のテーマを超えて考える～」……………4
- 大館記念病院ボランティア活動報告……………5
- 軽トラでゆこうプロジェクト活動報告……………6
- インフォメーション ……………7
- 各地区事務局 ……………8

ビハーラセミナー

「多田等観を知っていますか」

～明治期にチベットへ渡った秋田の僧侶～



令和元年6月30日、北秋田市民ふれあいセンター・コムコムにおいて、池端広樹氏（秋田県立博物館主任学芸主事）をお招きしてビハーラセミナーが開催されました。

多田等観(ただ・とうかん)は、1890年(明治23年)7月1日に秋田市土崎の西船寺で生まれ、明治末から大正にかけてチベットに入り修行し、日本への帰国に際して多数の仏典、文献を持ち帰り仏教学者として活躍した僧侶です。

教師を目指していた等観は、ひょんなことから京都に渡って西本願寺の大谷光瑞法主から当時留学していたチベット僧の世話係を命じられ、彼らの帰国の際に等観本人が拒んだにもかかわらず、同行してチベットへ向かうことに。

日本と国交のないチベットへ渡航するのは非常に困難を極めましたが、ラサヘ到着しダライ・ラマ13世に謁見、7千人もの修行僧を抱える僧院にて修行の後に現地でも認められゲシェー(博士)の学位を得て、およそ10年の修行の後にダライ・ラマ13世の慰留もありつつ帰国、貴重な経典・文献を我が国にもたらした功績は特筆すべきものです。



帰国後、チベット再訪の機会をうかがったこともあったそうですが、第二次世界大戦の戦況も厳しくなり、戦後は中国のチベット侵攻により結局叶わぬことに…。

再度チベットの地を踏むことなく、当地の民衆や歴史、文化が脅かされる状況を等観はどんな思いで憂っていたことでしょうか。

数奇に富んだその生涯は、多くのエピソードと相まって非常に興味深く、マニアックなテーマながらご参加された皆さんも熱心に聴き入っていました。

多田等観 年譜

- 1890年 秋田市に生まれる。
- 1910年 県立秋田中学校卒業 西本願寺に入る。
- 1913年 単身チベットに入国 チベット仏教を研究。
- 1922年 ラマ教の最高学位「ゲシェ」に任ぜられる。
- 1923年 帰国 東京帝国大学嘱託。
- 1934年 『西藏大蔵経総目録』を刊行。
- 1953年 『西藏撰述仏典目録』を刊行。
- 1955年 日本学士院賞受賞。
- 1956年 チベット学研究センター設置 主任研究員。
- 1967年 東京都で没。76歳。



「親なき後とは何か ～障がい福祉のテーマを超えて考える～」

令和元年10月28日、能代市二ツ井町のやすらぎホール とわに～において、社会福祉法人秋田虹の会理事長兼施設長・桜田星宏氏をお招きしてビハーラセミナーが開催されました。



福祉施設やサービスが今ほど整備されておらず、差別や偏見も厳しかった時代、障がい児・者福祉の世界では古くから「この子を置いて先に死ねない」といった声が度々親御さんから聞かれたそうです。

「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」の詩でも知られる重度の脳性麻痺だった山田康文くんのエピソードを紹介され、当時の障がい児とご家族の苦悩は計り知れないものであったことを思いました。

そんな障がい者福祉の歴史を紐解きながら、法律や国の制度としては一進一退を繰り返しつつ現在に至ります。

民法 877 条では「直系血族及び兄弟姉妹は、互いに扶養をする義務がある」と定められています。「親は子を、子は親を扶養しなければならない」というのは古来からの美徳のように思われますが、福祉サービスを利用したいのに定員が一杯だったり、金銭的な事情があったりなどの理由で利用できない時に、この民法 877 条が重くのしかかってくる場合があるとの指摘には驚きでした。

また、近年言われる「8050 問題」、高齢化した親世代の年金や蓄えが頼りで自立できていない中高年層が増加、もはや“親なき後”の問題は障がい者福祉の分野を超えて、社会全体で考えていかねばならない課題となっていることを強く感じるセミナーとなりました。

大館記念病院ボランティア 活動報告

会員の皆様は2017年セミナー講師においていただいた^{つしちとそくくん}对本宗訓先生（大館記念病院院長）を覚えておいででしょうか。『霊性の医療をひらく』と題しての講演でしたが、その中で「これからの医療には少しずつ霊性の視点を取り入れ、心や魂にまで気を配るような温かい医療をしていきたい。」と語っていたことが思い出されます。

ビハーラ秋田として先生の目指す医療にどのように関わることができるのか、明確なアクションが出来ないままに時を過ごしてしまいました。その間にも先生は通常の病院業務の隙間を縫って、自身の求める形での医療を実現するために活動をされておりました。私が拝見できたのは断片のようなものですが、各種講演会や地域のために「いきいき健康ひろば」を継続して行っておりました。「健康ひろば」も回を重ねるごとに人も増え、とても素敵な場になっていると感じています。

ビハーラ秋田の活動当初の目的の一つに「現場に入る」ということがあったと聞いていましたし、それぞれの場で活動いただいている会員がいらっしやいます。大館記念病院から再度「現場に入る」チャンスをいただいたのが7月でした。当然ながら即座に「はい、どうぞ」と行くわけもなく、最低限の知識を得ていただきたいと「医療の現場に入る為の基礎研修」を開催していただけることになりました。

「おぼうさんのための生命科学と医学概論」として全5回。僧侶会員の方へ参加のご案内をいたしました。代表：新川泰道、浄明寺前住職：藤井慶昭さん、信正寺：薦谷達徳さんと私4名で7月～10月まで研修に足を運びました。

かなりレベルを落としてくれたものと思いますが、医学的な勉強のない身としてはすんなり入ってはきません。都度感じていたのは「全部覚えなさい」ということではなく、医療現場で働く方々が踏まえている知識や経験を尊重する姿勢、そうしてお互いに培っている力を活かすことを目指すべき在り方ではないかということでした。「解剖学、病理学についての最低限の知識、バイタルサインについての理解。感染症についての知識は絶対必要です」とのことで、かなり丁寧に研修させていただきました。医療・看護の場にいれば、自然病院スタッフとも関わることになるので、お互いに信頼できるというように活動していきたいと思っています。

11月からは院内待合室の一角にて「茶話会」として、喫茶コーナーに座っています。また、患者さんの状態を最優先としているので、可能な場合のみ病室へもお邪魔してたりしています。一緒にお茶を飲みながら、他愛もない会話ではありますが、私たちの関われる「現場」となっています。今後参加者を増やしていくことについては当会に委ねられた部分もあると思っておりますので、活動に参加協力したいという方におかれましては、事務局へご連絡いただければと思います。

※ 活動の様態等については、大館記念病院の個人情報保護方針を尊重し撮影は行っておりません。

（報告者 佐藤善廣）



「軽トラでゆこうプロジェクト」報告

ビハーラ秋田 代表 新川 泰道
（「軽トラでゆこうプロジェクト」発起人）

昨年10月に発生した台風19号は、全国各地に大きな傷跡を残しました。

その被災地の一つ、宮城県丸森町で11月に2度ほど支援活動の一端に加わり、その被害の甚大さと困難な状況の長期化を実感、特に、被害を受けた家屋の片付けや泥寄せには悪路でも小回りが利き重宝される軽トラックが不足、との声に応えられないかを思案し、能代市二ツ井町出身のソウルシンガー・塚本タカセさんの曲『軽トラでゆこう』にちなんで標記の企画を立案、11月下旬から募金活動を開始いたしました。

能代山本の各店舗・事業所などで募金箱設置の他、ビハーラ秋田も協力団体として加わることでさせていただき、各方面への呼びかけや郵便振替口座への直接送金をお願いしましたところ、多くの方々にご支援ご協力をお寄せいただきましたことに厚く感謝申し上げます。



12月8日にはいとく二ツ井ショッピングセンター前で街頭募金を行い、代表の新川と会員の菅原隆文さんが参加、また1月18日には塚本タカセさん・小野リカルド輪太郎さんによるチャリティライブ（ささがわ食堂・能代市）が行われるなど支援の輪が広がり、当プロジェクトへの募金総額は447,222円となりました。2ヶ月ほどの短期間ながら多くの募金をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

寄せられた募金は軽トラ購入費用（スズキキャリーH23年式、車検整備代、運搬代）としての他、任意保険など当座の軽トラ維持費にも充てられるよう10万円を丸森町社会福祉協議会に寄付させていただきましたことも、併せてご報告申し上げます。この年式で程度の良い軽トラだと市場価格からして50万、60万は下らないと思われませんが、秋田スズキさんのご厚意にも感謝いたします。

軽トラックは無事に同社協へ届けられ、仮設住宅などへの引っ越しなど今なお続く復興支援活動に活用されており、今後もまだまだ必要とされる場面が多いと思われま

す。当プロジェクトとしてはいったん一区切りとなりますが、丸森町を含めこの度の台風で被災された方々

の困難な状況には変わりありません。さまざまな情報交換をしながら丸森町の状況を見守り、微力ながら支援の一助となるよう今後もご縁を保っていきたいと考えております。

今後とも皆様のご支援ご協力を、何卒よろしくお願いいたします。



詳細は Facebook ページ「軽トラでゆこうプロジェクト」をご参照ください

インフォメーション

● ビハーラ秋田 令和2年度総会

日 時 令和2年3月8日(日)

午後4時～大館記念病院ボランティア活動報告

午後5時～総会

会 場 北秋田市 ふれあいプラザコムコム 大研修室

※ 新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるため、状況により延期の場合も考えられますので、あらかじめご了承下さい。

● 秋田県がん患者団体連絡協議会きぼうの虹講演会

日 時 令和2年3月29日(日) 午前10時～12時

演 題 「前立腺がんの治療と再発の話」

講 師 秋田大学大学院医学研究科 腎泌尿器科講座 准教授

成田 伸太郎 先生

会 場 秋田県生涯学習センター講堂

参加無料・申込み不要となっております。

ご寄付いただいた方のご紹介

昨年度から本会へご寄付いただいた方をご紹介します。

お寄せいただきましたご寄付は、本会活動において有効に活用させていただいております。皆様からのあたたかな善意に深く感謝申し上げます。

源守院様・観音寺様・見性寺様・月宗寺様・長慶寺様・補陀寺様・山田久美様・福昌寺様・佐藤てる子様・龍淵寺様・正法院様・宝昌寺・本宮寺・富樫善明



虹のホール

髯ジェイエイ大館・北秋田葬祭センター

北秋田 〒018-3301 北秋田市綴子字田中大道下154番地

大 館 〒017-0864 大館市根下戸新町10-15



0120-62-9997

循環器内科・小児科

奈良 医 院

〒018-3322 北秋田市住吉町7-1

TEL 0186-62-1146

FAX 0186-62-1194

ビハーラ

入会案内

随時入会できます。各事務局までご連絡ください。
ビハーラレポートや各種案内を送付させていただきます。

年会費 2,000円

郵便振替 02580-5-50937

| 各 地 区 事 務 局 | | |
|-------------|-------|--------------------|
| 能代地区 | 山田 俊哉 | 0185-58-2302 (倫勝寺) |
| 藤里地区 | 新川 泰道 | 0185-79-1522 (宝昌寺) |
| 二ツ井地区 | 木村 高寛 | 0185-73-2755 (梅林寺) |
| 鷹巣地区 | 佐藤 俊晃 | 0186-66-2032 (龍泉寺) |
| 大館地区 | 佐藤 善廣 | 0186-49-5173 (本宮寺) |
| 森吉地区 | 奥山 亮修 | 0186-72-4143 (龍淵寺) |
| 阿仁地区 | 今井 典夫 | 0186-82-2418 (善勝寺) |
| 上小阿仁地区 | 保坂 康雄 | 0186-77-2750 (福昌寺) |
| 合川地区 | 亀谷 隆道 | 0186-78-2344 (太平寺) |

【編集後記】仕事で秋田市に行った際、多田等観さんのお墓参りに土崎の西船寺にちょっと立ち寄りました。本堂入口には肖像画や書籍等が並び、運良くお寺の方から丁寧な説明もしていただきました。等観さんの人生の壮大さにただ憧れます。 富樫善明

事務局から

昨年は、ビハーラカフェの開催があまり出来なかったことが心苦しく思いますが、大館記念病院への訪問など、新たに一つ”場”が出来たことはありがたく感じています。継続していけるよう努めていきたいと思っております。

皆様からのご意見・ご感想・情報をお待ちしております。その他、住所変更などございましたら事務局までご連絡お願いいたします。

ビハーラ秋田 事務局 (大館市本宮寺内)

〒018-5752 大館市本宮字熊の下 14

電話 0186-49-5173 Eメール vihara@jt.main.jp